

## せいぶ 西部遺跡(05北区南側) (岩船郡神林村大字牛屋字西部1192ほか)

日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、平成16年度から発掘調査を行っており、今年度は4月から11月まで調査します。今年度の調査は村道（平林・福田線）以北の約4,000㎡が対象です。

遺跡は荒川河口に近い右岸自然堤防の後背湿地に位置します。平成18年度の調査では、東西や南北方向に走る幅約70cmの帯状の高まりを検出しました。この高まりの交差点付近から、9世紀後半を中心とした土器が出土しました。また、同時期の土壌からはイネ属の珪酸体が検出されたことなどから、調査区周辺は古代の水田跡で、検出した高まりは水田域を区画するための大畦畔であったと推測されます。また、水田面は2枚（第1・2遺構面）確認できることも分かりました。第2遺構面に伴うと考えた溝からは8世紀末～9世紀初めの土器が出土しました。

今年度の調査区は、平成18年度に調査した南隣に位置しています。今回の調査では、東西・南北方向に大畦畔を配し、その中に中小の畦畔で区画された水田跡を検出しました。検出した大畦畔の幅は約70cm、それよりやや小さい中畦畔の幅は約50cm、そして最小の小畦畔の幅は20cmほどです。大畦畔の断面は角の丸くなった台形状を呈しており、水田面から50cmも高く積み上げている所もありました。また、大畦畔の交差点において、直径4mほどの範囲に土器細片や炭化物が多量に出土しました。遺構の性格は不明ですが、水田に伴う何らかの祭祀が行われた痕跡かもしれません。今回の調査で出土した遺物は、土師器、須恵器、木製品、杭、種子などがあります。

現時点で検出した中小の畦畔の残りは悪く、小さな水田区画や軸方向の異なる畦畔、そしていびつな区画なども存在します。これらが検出したとおりの水田区画なのか、水田廃棄後の環境により畦畔が崩れて結果的にそう見えるのかなどといったことを今後の調査で追求していきたいと思えます。さらに用排水施設の検出にも努め、調査区内で検出した水田の構造を明らかにしたいと考えています。

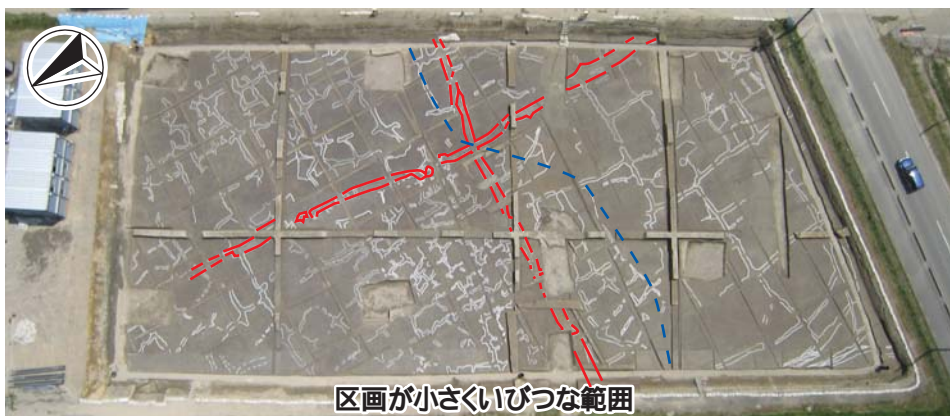
（大成エンジニアリング株式会社埋蔵文化財調査部 橋澤道博）



東西大畦畔の断面(調査区西壁)



遺物の出土状況



区画が小さくいびつな範囲

調査区全景(上空から)